

令和6年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立古里中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和6年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和6年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第2学年	国語 108人	社会 108人	数学 108人
	理科 107人	英語 108人	

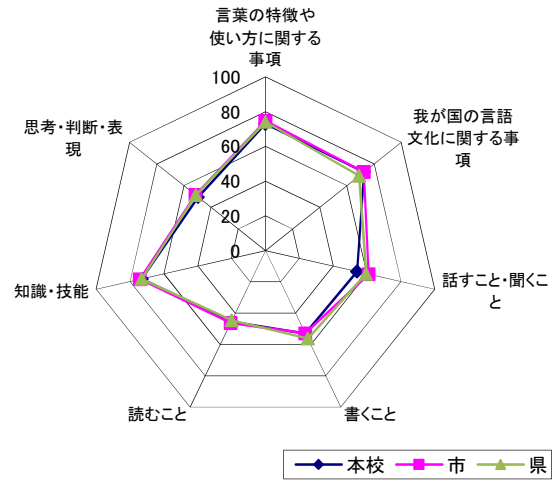
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立古里中学校 第2学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	73.0	74.7	74.1
	我が国の言語文化に関する事項	72.7	72.5	69.1
	話すこと・聞くこと	54.2	60.9	59.5
	書くこと	53.0	52.8	56.2
	読むこと	45.4	46.2	44.5
観点	知識・技能	73.0	74.2	73.1
	思考・判断・表現	49.5	51.5	51.2



★指導の工夫と改善

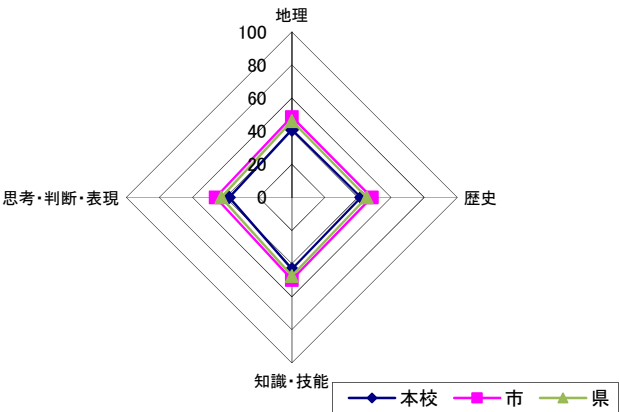
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	○漢字を正しく読む「依頼」において、県より2.7ポイント上回っている。また敬語に関する問題は、6.3ポイント上回っている。 ●平均正答率が県から1.1ポイント、市からは1.7ポイント下回っている。 ●漢字の読みはほぼ県と市の平均だが、書きの問題は、明らかに県と市からの平均を下回っている。	・漢字の書きについて、単元ごとに漢字テストを行う。また家庭学習において、漢字の書きの学習を行うよう定期的に課題を出す。 ・単語や文節などの文法に関する単元は、多くの生徒が苦手意識を持っているため、定期的に復習を行っていく。
我が国の言語文化に関する事項	○漢字の行書の基礎的な書き方を理解しているかという問題は、県より4.0ポイント、市より1.5ポイント上回っている。 ○歴史的仮名遣いに直す問題は、県より3.2ポイント上回っている。 ●歴史的仮名遣いに直す問題において、県は上回ったが、市は1ポイント下回った。	・歴史的仮名遣いは、古文を読むうえで基礎的な知識であり、読解するうえで重要な要素となってくる。そのため、今後も授業内での復習を丁寧に行ったり、問題を解いたりして定着を図っていく。
話すこと・聞くこと	○必要に応じて記録しながら話の内容を捉える問題においては、県と市の平均に近い。 ●全ての問題が県、市より下回っている。特に自分の考えや根拠が明確になるように、話の構成を考える問題が、県より11.8ポイント、市より15.7ポイント下回っている。	・話の内容を捉える問題では、メモを適切に取りながら、要点を抑えていくことが重要である。そのため、授業内でも聴き取りの問題を行ったり、普段の授業で必要な情報のメモを取ったりすることを呼びかけていく。 ・自分の意見を表現するということを苦手としている生徒が多いので、授業内でそのような活動を増やしていく。
書くこと	○資料から読み取った内容を明確にして書くこと問題が、県より3.2ポイント、市より4.9ポイント上回っている。 ●自分の考えを根拠を明確にして書く問題が、県より4.7ポイント、市より0.7ポイント下回っている。 ●2段落構成で文章を書く問題も、県より6.1ポイント、市より2.0ポイント下回っている。	・論証に関する問題を、常に授業中に問いかける。また根拠と主張の関係を明確にして書く練習を定期的に行う。 ・クロムブックを活用して、論証に関する問いにおいては、他の考え方を知り、自分の考えと比較するように促す。
読むこと	○文章の内容について叙述を基に捉える問題は、県より1.0ポイント、市より0.3ポイント上回っている。他の「読むこと」に関する問題は、県、市の平均に近い。 ●場面の展開や登場人物の心情の変化について、描写を基に捉える問題は、県より5.3ポイント、市より7.7ポイント下回っている。	・登場人物の心情は、文章の記述を根拠にして考えていくことが重要である。登場人物の言葉や言動の叙述に注目することで読み取ることができるように指導していく。 (発問の工夫)

宇都宮市立古里中学校 第2学年【社会】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	地理	41.0	48.6	46.2
	歴史	41.9	48.3	45.3
観点	知識・技能	43.3	49.8	47.5
	思考・判断・表現	37.8	46.1	42.7



★指導の工夫と改善

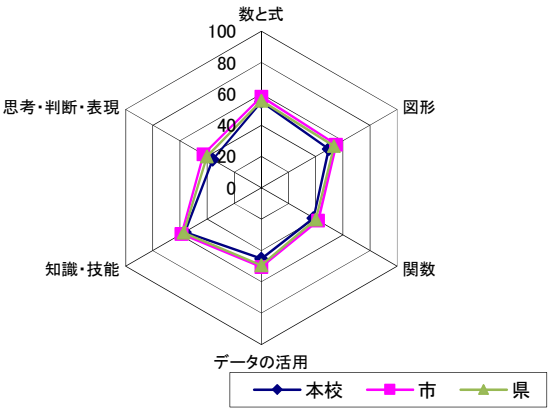
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
地理	○世界の主な宗教についての問題の正答率は市・県の正答率を上回っている。 ○中国の経済的発展についての問題の正答率は、市・県の正答率を上回っている。 ●平均正答率は県・市より低い。 ●時差を求める問題の正答率は、市・県の平均正答率を大きく下回っている。 ●六大陸三大洋についての問題の平均正答率が、市・県よりも低い。 ●資料を読み取ったり、複数の資料をもとに考察・表現し自分の言葉で表現することが苦手。 ●両分野(地理歴史)にまたがった問題が苦手。	・地図を用いた問題やグラフや統計資料の読み取りが、正答率から見るときに苦手意識が強い。今後は、教科書などに出てくる基本的なグラフや統計資料などの見方について丁寧に指導していく。 ・ICT教材を積極的に使い、興味関心が得られるような授業を展開していく。 ・時差の求め方が定着しきれていないので、授業中に時差の問題を小テスト形式で実施していく。 ・資料をもとに考察する問題の正答率が低い。特に複数資料の読み取りの問題の正答率が低いことから、授業中に資料の読み取りを行ったり、資料読み取りをもとに自分の考えを記述し他の人と意見を交換したりする時間を取り入れていく。 ・誤答した問題を分析していくと、問題文の意味を理解できていないようなので、授業中に語句の意味を確認したり社会的事象についての文章をしっかりと読み込んだりする時間を確保する。 ・両分野(地理歴史)にまたがった問題の正答率が低いので、地理と歴史を関連付けた授業展開を行い、生徒に地理歴史が関連づいていることを意識させる。
歴史	○弥生時代のムラの様子についての問題の平均正答率は、市・県よりも高い。 ○琉球王国との中継貿易について答える問題の平均正答率は、市・県の正答率を上回っている。 ○聖武天皇が仏教を尊重した理由について答える問題の平均正答率は、市・県の正答率を上回っている。 ●全体の平均正答率は、市・県よりも低い。 ●複数の資料をもとに考察・表現したりする問題の正答率は、市・県と比べると大きく下回っている。 ●律令国家の仕組みや律令体制時の日本の様子について答える問題の正答率は、市・県と比べても全体的に大きな差が出ている。 ●両分野(地理歴史)にまたがった問題が苦手。	・基礎学力の定着のために、授業の最初に小テスト等の復習の時間を実施する。 ・資料をもとに考察する問題の正答率が低い。特に記述式問題の正答率が市・県の正答率を大きく下回っているため、どのような語句をどう使って記述をしていくのかを指導していく。また、記述問題で、無回答の割合が高いことが分かる。問題を解く前からあきらめてしまう気持ちが強いことが読み取れるので、改善していく方策を見つけ日々の授業でも声かけをしていきたい。 ・誤答した問題を分析していくと、問題文の意味を理解できていないようだったので、授業中に語句の意味を確認したり社会的事象についての文章をしっかりと読み込んだりする時間を確保する。 ・両分野(地理歴史)にまたがった問題の正答率が低いので、地理と歴史を関連付けた授業展開を行い、生徒に地理歴史が関連づいていることを意識させる。

宇都宮市立古里中学校 第2学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	55.0	58.2	55.5
	図形	49.6	55.1	53.5
	関数	38.4	41.9	40.2
	データの活用	45.2	50.5	49.4
観点	知識・技能	56.4	58.8	57.3
	思考・判断・表現	36.0	42.7	40.3



★指導の工夫と改善

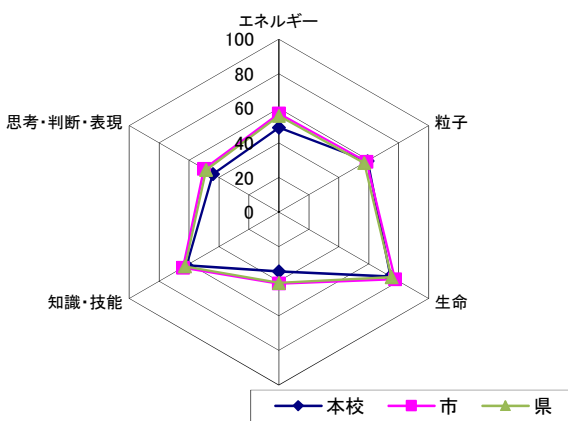
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○負の数の累乗といった計算は正答率は9割近く、市や県の平均を上回っている。 ●自分自身で計算することはできるが、示された計算手順から、計算の意図を読み取るような問題では、正答率が市や県の平均を下回っている。	様々な解き方ができる問題であっても、自分の考え方以外の解き方の意図を理解するのが苦手であるので、授業の中でも、様々な生徒の解き方を取り上げながら、柔軟に問題に対処できるような力を身に付けさせられるようにしていく。
図形	○回転移動についての問題では、県や市の平均近くもしくは、平均をわずかに上回る結果であった。 ●おうぎ形の弧の長さや、円柱と円錐の体積の関係など、計算によって数量の関係を求める問題の正答率が市や県の平均を下回っている。	2学年では体積求めたりする場面が少ないが、3学年では相似な図形の単元で面積や体積などを求める場面があるので、円柱や円錐、角柱や角錐といったつながりのある図形をより関連付けて指導していく。
関数	○比例の関係を表す表から式を求めて、比例のグラフをかくことはできている。また、グラフから情報を読み取る力を問う問題の正答率は、市や県の平均と大きな差はない。 ●単純な式を求めたり、グラフを描いたりするのはできるが、問題文から変域などの、その問題で気を付けなければいけない情報を読み取る力が弱い。	教科書の導入場面などの内容において、計算だけでなくその問題に対して解答が適切なのかを考えたり、方程式の文章問題の際に解の吟味の大切さをより意識させられるような指導を行ったりする。問題演習の際にも、解の吟味の必要性を感じられるような問題に取り組む機会も作っていく。
データの活用	○ヒストグラムから読み取ったり、条件に当てはまるヒストグラムを選ぶふんだりするような問題の正答率は市の平均を3%から5%程度上回っている。 ●理由を説明するような問題は、市の平均を10%以上下回っている。	基本的な計算を身に付けたあとに、日常場面につながるような例題から、根拠をもって説明するような場面を設ける。また、他の生徒の説明を聞く場面も増やし、様々な考え方に触れる場面を作る。

宇都宮市立古里中学校 第2学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	エネルギー	48.9	57.0	55.7
	粒子	59.2	58.6	56.9
	生命	74.5	77.5	75.2
	地球	34.2	41.4	40.9
観点	知識・技能	61.7	64.1	62.8
	思考・判断・表現	44.0	50.1	48.7



★指導の工夫と改善

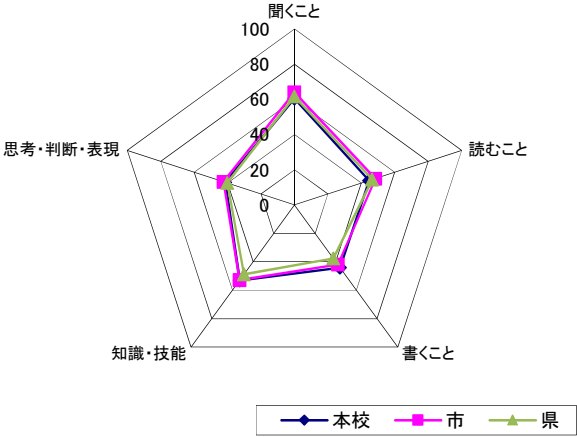
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	○正答率は市・県のものよりも下回っているが、フックの法則については高い正答率となっている。 ●平均正答率は、市よりも8.1ポイント、県よりも6.8ポイント下回っている。特に、考察について検討する問題や、光の現象において、像の見える位置や鏡ではね返った後の光の道すじに関する問題での正答率が低い。	・エネルギー分野で扱うものは、身近に存在し、それを使って生活が成り立っているが、目で見て確認できない存在であるため、理解しづらい生徒が多い。そこで、身近な現象と結びつけることを意識した授業展開をしていく。 ・問題演習を定期的に行い、様々な事象に関する問題に対応できる力を養っていきたい。
粒子	○平均正答率は、市よりも0.6ポイント、県よりも2.3ポイント上回っている。特に、ガスバーナーの操作方法や質量パーセント濃度の式、気体の集め方など基本的な問題では、県の平均正答率を上回っている。 ●溶解度については理解できていない生徒が多く、正答率が低い。	・粒子分野では、物質の量的な関係をとらえるのが苦手な生徒が多い。グラフを読み取ったり、計算をしたりなど数学的な考え方が必要なため、問題演習を定期的に行いたい。 ・実験の説明を丁寧にを行うことを意識するだけでなく、実験方法を生徒たちに考えさせるなどの活動も取り入れ、主体的に取り組む授業づくりをしていきたい。
生命	○他の領域よりも平均正答率が高く、市・県の正答率は下回るものの、正答率が90%を超える問題もある。 ●平均正答率は、市よりも3.0ポイント、県よりも0.7ポイント下回っている。特に、動物の頭部のつくりと食べ物を結びつける問題に関して正答率が低い。	・生命分野は、植物・動物の特徴を整理しながら分類していく単元である。多くの生物が取り上げられ、その中には生徒が実際に見たことがないものなどがある。そのため、授業で例を提示するときには、画像や動画を活用して視覚的に印象付けたり、インターネットを使って自分で調べる時間を設けたりするなど、幅広い知識が付けられるような指導の工夫をする。
地球	○全体的に正答率が低い。地震に関する問題の正答率が、火山や地層の分野よりも高くなっている。 ●平均正答率は、市よりも7.2ポイント、県よりも6.7ポイント下回っている。特に、火成岩や地層に関する問題では、全体的に正答率が低く、10.0ポイント以上県平均より下回っているものもある。	・地球分野では、扱う教材のスケールが大きく、実物を観察したり、事象を再現する実験を行ったりすることが困難な内容が多いため、あまり身近に感じられず、イメージしにくいものが多い。そこで、ICT教材を有効活用し、動画や画像によってイメージしやすい環境を作り、実感を伴った理解にできるだけ近づけられるような授業にしていきたい。

宇都宮市立古里中学校 第2学年【英語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	60.5	64.0	61.6
	読むこと	44.7	48.4	46.6
	書くこと	44.1	42.0	37.8
観点	知識・技能	53.1	52.9	48.9
	思考・判断・表現	41.4	42.4	40.1



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	○「情報を正確に聞き取る問題」では、県の平均正答率を上回っている。 ●平均正答率は、市よりも3.5ポイント、県よりも1.1ポイント下回っている。特に「情報を聞き取り、適切に応答する問題」では市より12.4ポイント、県より9.3ポイント下回った。	・読むことに比べても、平均正答率のポイントの差は大きくはない。これは授業の中で、リスニングの機会を多く設定した効果であると思われるため、今後も継続していく。 ・普段からクラスルームイングリッシュを多用し、リスニングの機会を可能な限り作っていく。 ・話し手の意図や気持ちを考えながら聞くよう、繰り返し指導を行う。
読むこと	○「日常的な話題について、概要を捉える問題」「be動詞の過去形を的確に捉える問題」「人称代名詞の目的格を的確に捉える問題」ではいずれも、県の平均正答率を上回っている。 ●平均正答率は、市よりも3.7ポイント、県よりも1.9ポイント下回っている。特に「日常的な話題について、必要な情報を読み取る問題」では、市より5ポイント、県より2.6ポイント下回った。	・英文の要点を抑えながら英文を読み、必要な情報を読み取るために、文中のキーワードにマークしたり、問われていることが書かれている部分を探してみたりする練習を今後も継続する。 ・普段の教科書内容理解の際には、英語でのQ&Aをより多く取り入れて、英語での答え方のパターンを身に付けさせる。
書くこと	○平均正答率は、市よりも2.1ポイント、県よりも6.3ポイント上回った。 ●「一般動詞の三人称単数現在形を正確に書く問題」「助動詞の否定文を正確に書く問題」「日常的な話題に関して、まとまりのある文章を書く問題」が、市の平均正答率及び県の平均正答率を下回った。	・一般動詞、助動詞などの基礎基本的な文法を用いて、ライティングを行うために、基本的な英文を、正しい英単語や英文法で書く練習を授業の中で継続して行っていく。 ・まとまりのある文章を書くために、読み手を想定して「何を知ってもらいたいのか、何が知りたそうか」というポイントを整理しながら、文章を書くことを意識させる。

宇都宮市立古里中学校 第2学年 生徒質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○肯定的回答が県の平均を10ポイント以上上回ったのは、質問6「家で、学校や塾の決められた宿題のほかに、自分で考えた勉強をしている(+10.7)」質問29「授業の最後に、学習したことを振り返る活動をよく行っている(+11.2)」質問66「家の人と学習について話をしている(+11.8)」であった。質問2「家で、学校の宿題をしている」については、「はい1(とても思う)」と答えた生徒は84.3%で、県の平均を13.9ポイント上回った。昨年度から取り組んでいる「マイスタディ(古里中学校版家庭学習:一週間の学習予定を立て毎朝取り組み状況を担任に提出するとともに、定期的に保護者がコメントを書く。)」の成果であると考えられる。また、質問29(+11.2)に関しては、古里中の各教室の黒板には、「本時のねらい」「ふりかえり」という掲示シートが用意されており、それを常時授業中に使用している状況から、良い結果が得られた。

○教科に関して肯定的回答が県の平均を10ポイント以上上回ったのは、質問81「社会の学習は好き」質問87「技術・家庭の学習は好き」質問93「社会の学習は、将来のために大切だと思う」であった。この結果から、特に社会科、技術・家庭科の授業では、生活に密着した題材を扱うなど、生徒が将来役立つ勉強だと感じている。また生徒が授業に興味・関心を持って、主体的に学習に取り組むための指導の工夫が行われていたことが分かる。他教科においても研修等で教員同士の情報交換等を重ね、さらに生徒の主体性を促す授業改善に努めることが重要である。

●質問8、9から、本校生徒の家庭での学習時間が、平日・休日に限らず約4割の生徒が1時間未満であった。特に土・日など休日の1日あたりの学習時間が1時間より少ないという生徒が40.7ポイント(県:30.5、市29.7)であり、県や市のデータから比較しても10ポイント差がある。この結果から、既に行っている「マイスタディ」の実質的な活用の仕方を、生徒と共に再度見直すことが必要である。また土日など休日の学習時間の実際において、個々の生徒の実態を把握し、それぞれにあった学習計画を立てるよう必要に応じて教育相談を日々行い、休日の学習時間の確保に努めさせることが重要である。

●肯定的割合が県の平均より下回る主な学習項目は、質問18「疑問や不思議に思うことは、分かるまで調べたい」、質問20「難しい問題に出会うと、よりやる気が出る」、質問24「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる」であった。この3つは、8～9ポイント県のデータと比較して差がある。このことから学習に対する「粘り強さ」「主体性」が課題となる。今後の指導上の工夫としては、全教科においてそれぞれの学習活動の中で、学びあいを中心に、探究心を持ち粘り強く学習内容に取り組み、その成果が実感できるといった授業展開を考え、その改善に努めることが必要である。

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・家庭学習を中心とした自主学習の充実(マイスタディ) ・主体的、対話的で深い学びの視点からの授業改善(指導と評価の一体化)	・主体的な学びを促す個に応じた学習指導 ・毎時の「本時のねらい」の明確化と振り返りの場面の設定 ・生徒の学習改善に生かす評価の工夫	質問6「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」肯定的回答割合は67.6ポイント。 質問28「授業の中で目標(めあて・ねらい)が示されている」97.2ポイント「授業の最後に学習したことを振り返る活動をよくしている」92.6ポイント。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
質問24より、「主体的に粘り強さを持って学習に取り組む」態度を育むこと。	・学びあいによるコミュニケーション能力の育成	・学習に対する「主体性」「粘り強さ」を、学びあいの中から実感させ習得できるよう授業展開を工夫する。 ・教員同士が授業をお互いに参観し、授業研究を行い、授業改善に努める。